



CQI

(医療の質)について

医療の質評価推進チーム
リーダー 三浦 猛

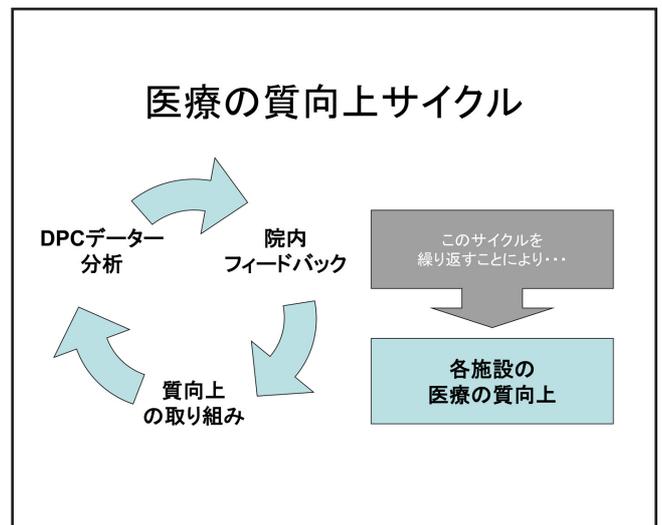
がんセンターの皆様には、『CQI』で何？と思われる方が大部分だと思います。これはCQI=の頭文字をとったもので、簡単に言えば、がんの治療で、質の向上をめざして行きましょうという意味と思って下さい。がん医療の質の向上をめざしたCQI研究会は、3年前の2007年12月に発足した全国規模の研究会組織です。千葉がんセンターを中心に、神奈川がんセンター、愛知がんセンター、四国がんセンター、栃木がんセンターの5施設でスタートし、その後岩手県立中央病院、今回から九州がんセンターも加わることになりました。また今年から全国の地域がん診療拠点病院も自由参加することとなり、今回の会議では41施設が参加しています。

この研究会の特徴は、5大がん(胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、肝臓がん)を中心にDPCデータを元にした、各施設間のデータの比較を実名で行っているということです。日本ではこれまで、各施設間の治療方針、入院日数、抗生剤の使用、治療成績などの比較を実名で行うことがほとんど行われていなかったのが画期的なことと考えています。今年、2月に東京、10月に愛知で行われ、今後は毎年1回程度の開催で、2014年には神奈川がんセンターで開催予定です。データ分析は、グローバルヘルスコンサルティング?ジャパンというDPCデータ解析専門の会社が行っています。

皆様には、この全国のCQI研究会のあと、院内CQI研究会という名で、同様の内容を院内講演会という形で公開しています。これまでには主に医師を対象としていましたが、今後はがんセンターで働く皆様にも、神奈川県立がんセンターの現在の實力といかに質の高いがん

医療を行っているかを知っていただく良い機会と考えられますので、是非参加をしていただきたいと思います。今回の第4回院内CQI研究会では、胃がん、肝臓がん、食道がんについての検討を行いました。参加者は49名でまだまだ良く知られていない会ですが、これからもよろしくお願いたします。がん医療の質の向上には、医師だけではなく、神奈川県立がんセンターで共に働く皆様の力があって始めて得られるものです。次回の第5回院内CQI研究会は、6月に行う予定です。

これまでは院内にCQI研究会の組織がありませんでしたが、今年4月、神奈川県立がんセンターが、独立行政病院機構になって、院内に新しく医療評価安全部という組織が作られ、その下部組織に、医療の質評価推進チームが作られました。その中にQI(Quality Index : 医療の質)研究会とCQI研究会が作られました。DPCデータの分析だけでは、医療の質の向上にすでに限界があることがわかってきましたので、現在は癌登録のデータや外来のデータなども併用してより目的にあったデータにする努力を行っています。皆様の代表もメンバーとなっていただいています。定期的に会合を開き、神奈川県立がんセンターでのがん医療の質の向上をめざして、日々努力をしています。少しずつその成果が現れてくるものと考えています。



市民公開講座
「かながわ健康セミナー 2010 in 横浜」
「大腸がんは怖くない」

副院長 赤池 信

「大腸がんとは」という内容で 疫学統計、 発生と予防、 臨床について講演しました。

疫学統計：がん死亡は1981年に脳卒中を抜いて死因の1位になって以来増加の一途ですが心疾患、脳卒中は平衡状態で推移しています。今回は、神奈川のがん登録資料を用いて部位別罹患数1～5位を示します。男性では胃、大腸、肺、前立腺、肝胆道、女性では乳腺、大腸、胃、肺、子宮となっています。同じく死亡者数1～5位は、男性では肺、胃、大腸、肝胆、膵、女性で大腸、肺、胃、乳腺、膵となります。このことから、男性における傾向として肺がんは罹患数増加に比例して死亡数増加していますが、大腸がんは罹患数増加著明な割には死亡数は増加していません。女性では、乳腺と大腸の罹患数増加が著明ですがそれ程死亡数増加は認めず、肺は罹患数少ないが死亡数多い傾向を示しています。

発生と予防：大腸悪性腫瘍には組織型は多種ありますが、ほとんどが腺癌です。この腺癌の発生には2系統あり、ひとつは腺腫から癌に進展する腺腫-がん関連(adenoma-carcinoma sequence)であり、ひとつは正常粘膜の癌化(de novo)です。いずれも遺伝子変異を伴う多段階発癌であることが知られています。これらの発癌を引き起こす要因として、身体的要因(性、年令、遺伝)と環境的要因(感染症、生活習慣、食生活、栄養状態)があり、身体的要因に関しては遺伝的疾患として家族性大腸腺腫症(腺腫性ポリポージス)や遺伝性非ポリポージス大腸がん(HNPCC)などの若年発症が指摘されています。環境的要因としての感染症はヒトパピローウイルス(子宮頸がん)、ヘリコバクテリウム(胃癌)、HCV(肝癌)などがありますが、大腸がんには関連したものは認めていません。一方、生活習慣、食生活、栄養については様々な研究分析がなされています。表1のごとく、肥満、内臓脂肪、飲酒、喫煙といった生活習慣病の原因、結果に含まれる項目は大腸がん(または全てのがん)の確実な危険因子とされており、さらに赤身の肉や加工肉などの摂取も危険因子と指摘されています。赤身の肉については、動物性脂肪、コレステロール摂取による胆汁酸分泌増加、鉄分多量摂取による酸素ラジカルの生成、強火調理や体内代謝で生じるニトロソアミンが発がんに関与するとされています。反対に生活習慣病を改善すべく積極的な運動をすることは大腸がんのみならず全てのがんの予防に有効であることが報告されています。また、野菜、食物繊維は以前より予防に役立つと言われており、野菜に含まれる食物繊維とカロテノイド、ポリフェノール、フラボノイド

などによる抗酸化作用が主な利点と言われていましたが、最近の10年間の研究結果からは、野菜の種類は多く野菜という分類では優位性を見いだすことは困難であったので食物繊維のみが予防因子として残りました。しかし、野菜の種類によっては予防効果が明確に示されています。牛乳、カルシウムなどは新たに効果が検証され、ほぼ確実な予防要因とされた食品です。以上のような生活上の注意点を考慮することが一次予防ということになりますが、二次予防としては検診が重要となります。現在、検診はヒトヘモグロビン抗体による「免疫学的便潜血検査」により行われています。7～8%の陽性例は内視鏡検査(または注腸造影検査)が実施され、その内の30%にポリープ、3～5%に大腸がんを発見します。これは、1000人の検診受診者に2～3人がんを発見することになり、発見されたがんは50%以上が早期がんであったことから検診が大切であることが分かります。

臨床：外科治療を受けた患者さんのデータから解析します。罹患年令は男女とも60才台にピークがあり、結腸癌(56.2%)vs直腸癌(43.8%)で、結腸癌の中ではS状結腸に最も多く認めています。初診時の症状としては、出血が最も多く次いで便潜血陽性、腹痛、便秘などと続きます。便潜血陽性者には早期癌を半数に認めますが、腹部腫瘍で受診した群は全例進行癌でした。大腸がんの診断には腫瘍マーカー、内視鏡検査と生検、注腸造影、CT、MRI、PET-CTが主なものですが、最近では高速CTによるバーチャルコロノスコーピーも用いられるようになりました。これらの手段により臨床病期(STAGE)が判断され、病期に適した治療方法が選択されることとなります。STAGE 0との一部は内視鏡治療、STAGEの大部分と、は手術治療が主となり、の一部に対しては補助化学療法が勧められています。STAGEでは手術、化学療法、放射線治療などで集学的治療を目指しますが、当初より緩和医療も考慮することになります。

まとめ：一次予防としての日常生活を大切にすることと、二次予防としての検診を受ける努力が重要です。検査、治療を必要とする場合には医療者と率直に話し合うことが良い医療に繋がると考えます。

食品、栄養、身体活動と大腸がん (一次予防)

評価	リスク要因	予防要因
確実	肥満、腹部肥満 赤身の肉、加工肉 タバコ アルコール(男性) 高身長	身体活動
ほぼ確実	アルコール(女性)	食物繊維を含む食品 にんにく 牛乳 カルシウム
示唆的	鉄分 チーズ 動物性脂肪/飽和脂肪酸 砂糖	野菜、果物 葉酸、VitD 魚肉

神奈川サイエンスサマー行事

科学教室

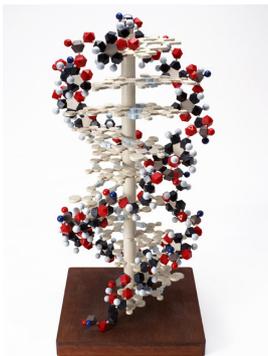
「染色体に触れてみよう」
が開催されました

臨床研究所

主任研究員 菊地 慶司



昨今青少年の「理科離れ」が心配されていますが、それに対する取り組みとして神奈川県では毎年夏に県の試験研究機関、県内の博物館、科学館、大学、企業の研究機関で科学講座や体験教室などを通して若い世代に科学に親んでもらう企画「神奈川サイエンスサマー」を実施しています。今年度も昨年7月17日から8月31日の間に県内の141機関でさまざまな行事がおこなわれ、がんセンター臨床研究所においても8月22日に中・高校生を対象とした科学教室「染色体に触れてみよう」が開催されました。



人間はおよそ60兆個の細胞からできています。染色体はその細胞一個一個の中にあり、遺伝子の本体であるDNA（太さは100万分の1ミリですが、長さはおよそ2mにもなります）をコンパクトに格納し、DNAの遺伝情報を読み出している装置です。さらに染色体には細胞が2個に分裂して増えていく際にDNAを複製して2個の細胞に分配する役割もあります。このような役割を持つ染色体の異常は、がんの原因にもなっています。

参加者は中学生21人と高校生3人の24人でした。まず松隈章一研究員が染色体やDNAの構造や役割を講義し、続いて私が過去から現在に至るDNA研究の流れ（今後数年のうちに患者さんのがん細胞の全DNAを数分で読みとって異常を検出できるようになると期待されています）を紹介いたしました。加えて参加者には顕微鏡による細胞や染色体の観察、DNAの遺伝情報を解読するなどのクイズ、題目の「染色体に触れてみよう」の通り細胞からDNAを取り出す実験を通して染色体にかかわる科学を体感してもらいました。

参加者は中学生21人と高校生3人の24人でした。まず松隈章一研究員が染色体やDNAの構造や役割を講義し、続いて私が過去から現在に至るDNA研究の流れ（今後数年のうちに患者さんのがん細胞の全DNAを数分で読みとって異常を検出できるようになると期待されています）を紹介いたしました。加えて参加者には顕微鏡による細胞や染色体の観察、DNAの遺伝情報を解読するなどのクイズ、題目の「染色体に触れてみよう」の通り細胞からDNAを取り出す実験を通して染色体にかかわる科学を体感してもらいました。

その後のアンケートでは、参加者全員から「講義もよくわかって楽しかった」「講義は難しかったけれど実験が楽しかった」という感想をいただきました。これからもこのような行事を通して子供たちの生命科学への興味をはぐくみ、将来の医学を発展させる研究者を育てる役に立てばと私たちとしても実感した次第です。

第2回

「キッズ医療体験セミナー」

呼吸器外科 坪井 正博

地域社会貢献の一環として、旭区の中学生を対象とした第2回「キッズ医療体験セミナー」が2010年8月21日午後、当院の講堂で開催されました。

会場に集結した選ばれし31人の中学生は、昨年以上に「新しいもの」に対する好奇心で目が輝いていました。それにつられて、立ち会う医師はもちろん看護師も事務の方々も昨年以上にヒートアップしていた感があり、大きな声があちこちでこだましていました。その甲斐あって、参加者のほとんどが「大満足」と評価してくれました。この一端は、昨年同様TBS「朝ズバ」で全国放送され、その後You-Tubeにも掲載されました。ご覧になっていない方は、「http://kcch-tog.umin.jp/event/past/kids_seminar2010.html」に是非アクセスしてみてください。普段寡黙でならしているT医師の素敵な笑顔も垣間見ることができます。本セミナー開催の目的のひとつが「子供たちに医療者特に外科医を目指す動機づけの機会になること」。現時点で参加者の20名から医療者への道を志望したいとの反響がありました。10数年後を楽しみに待ちたいと思っています。



渡邊看護局長

佐川看護特別研究助成賞と 横浜市地域保健医療事業功労賞をW受賞

看護局長

がん看護専門看護師 渡邊眞理

昨年4月に看護局長に就任いたしました渡邊です。同年3月までは医療相談支援室長を4年間担当してきました。関係する医療機関の皆様方には大変お世話になりました。



今回私は、昨年11月13日に、佐川看護特別研究助成賞と11月16日に横浜市地域保健医療事業功労賞をいただきました。

佐川看護特別研究助成賞は1989年に設立した財団法人佐川がん研究助成振興財団が、2003年から「がんの予防・医療・看護の研究業績が顕著で、将来も活動が継続される者」を対象に授与証と研究助成金を授与するものです(財団法人佐川がん研究助成振興財団資料より)。私が受賞した佐川看護特別研究助成賞は「看護研究の貢献者」に授与される賞で、本年度は看護師2名が受賞しました。写真のようにクリスタルの証書とブロンズ像(笹戸千津子作「悠」)を理事長である栗和田榮一氏より直接頂戴しました。ご推薦、ご選考いただいた先生方に心より感謝申し上げます。看護研究の業績で研究助成金が授与されることは看護師として社会的にも大変うれしく励みになることでした。

今回いただいた助成金は「がん患者を対象とした看護師による医療連携調整に関する研究」というテーマで現医療相談支援室長の清水奈緒美さんと共同で研究をしています。がん患者の医療連携に関して私は、地域医療連携室の立ち上げからずっと関わり続けてきたテーマでした。この研究の成果をがんの医療連携調整の質の向上にいかし、がん患者・家族が必要な時期に必要な場所で安心して療養できるように貢献できることを願っています。

横浜市地域保健医療事業功労賞は神奈川県看護協会からご推薦いただき賞状をいただき、1月27日新春のつどいでご紹介いただきました。心より感謝申し上げます。

さて私が4月に看護局長に就任して私の方針として看護職員の皆さんに伝えたことがあります。それは以下の内容です。

がんセンターを選んで下さった患者・家族に安心・

安全な医療(看護)を提供する

一人ひとりのスタッフを大切に

全てのセクションで協力し合う

地方独立行政法人化したがん専門病院の看護局として、できることは何かを明確にしていく

看護の質の向上

以上の方針と、がんセンターの看護師として誇りとやりがいを持つ職場作りを目指したいとお伝えしました。 に関しては「看護局でできること」をさっそく看護科長会や各セクションで検討し、4月から様々な取り組みを開始しています。嬉しいことは少しずつですが、それらが実を結んできていることです。中でも全てのセクションで協力し合う体制は地方独立行政法人化したがんセンターでは不可欠のことです。そのためにはセクションや職種を超えたコミュニケーションが重要と考えています。がん患者さんやご家族が安心して安全な医療が受けられる体制づくりをこれからも全ての神奈川県立がんセンターの職員の皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っております。

また私は日本看護協会が認定するがん看護専門看護師の資格を2003年に取得し、がん看護の質の向上に向けて活動を続けてきました。これからはがん患者・家族の支援、がん看護に携わる看護師の支援と国立がん研究センターがん対策情報センター外部委員意見交換会委員や日本がん看護学会理事等の社会的活動も継続して、当院の役割にいかしていきたいと考えています。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

高田薬剤科部長 県保健衛生表彰知事表彰を受賞

平成22年度神奈川県保健衛生表彰式が去る平成22年11月16日神奈川県総合医療会館で行われ、当センターの高田薬剤科部長が、受賞されました。

本表彰は、多年にわたり、県内の医療、環境衛生、食品衛生、薬事、地域公衆衛生など、保健衛生野上に尽力されている個人、施設、団体の功績を広く県民に顕彰するため、知事が表彰を行うものであり、昭和35年から始まり、今回で51回目を迎えます。



栄養管理科 地下1階からのメッセージ

栄養管理科長 中田恵津子

みなさんこんにちは。栄養管理科は、栄養士5名、調理員18名、配膳員など47名で、患者さんのお食事の提供とエネルギーや栄養素に制限のある方の栄養指導を行っています。1日約700食の食事を提供しています。

病院給食は、大量に食材を購入し、大量に調理する、一括調理だから食べにくくても仕方がないとお考えではないでしょうか。

病院給食の考え方は変わってきました。患者さんが入院されると栄養状態や病状によりそれぞれに適した必要栄養量による栄養計画が作られます。食事は計画に基づきオーダーされ、お薬との関係で避けたほうが良い食材やどうしても食べられない食品があるなどの個別対応は禁止コメントでオーダーされます。

栄養管理科は個々の患者さんに応じた食事を提供しな

くではありません。いくら必要栄養量を満たすからと言っても、食べていただかなければ治療には貢献できません。

栄養士は、食物アレルギーや禁止コメントでは対応できない食事がオーダーされると、直接患者さんからお話を伺い、オーダーされた食事に近づけるようにしていきます。昨年からは週1回定期的にベッドサイド訪問を行い、患者さんから食事に対する不安や意見を直接伺うようにしました。栄養士の数が少なく、まだ米飯食を提供している方に限られます。いずれは、他の食事を召し上がっている方へと広げていきたいと思えます。

また、調理員は、食事の安全を守るため調理過程の改善に向けて検討を重ねています。一例ですが、業務用サイズの食材を極力減らし、家庭用サイズへ転換することで常に開封直後の調味料が使用できるようになりました。現在は、大きな形態の料理が食べにくい方に安心して食べていただけるよう、きざみコメントに対応できる食材の種類や大きさの標準化を検討しています。

栄養管理科はA棟地下1階・・・病棟からは遠く離れた場所にはありますが、患者さんの身近な存在となり、治療に貢献できる栄養管理を目指したいと考えます。

乳がん看護認定看護師の外来相談の状況

A 8 病棟

乳がん看護認定看護師 瀬畑善子

2007年7月に乳がん看護認定看護師の認定を受け活動の1つとして、2008年4月から第2木曜日に外来相談を担当しています。

乳がん看護は、乳房の異常で検査を受ける時からがんの告知、その後の治療選択、初期治療後の補助療法、長期にわたる経過観察での通院、再発・転移による治療、緩和・終末期と発症から最期まで関わることが特徴です。これらを踏まえ行った3年間の外来相談の状況をお伝えします。

具体的には、治療や手術の術式選択、化学療法、手術療法、放射線療法、内分泌療法の副作用の不安や対処法、再発・転移の不安などが多かったです。

患者さんは、誰に相談したらよいのか、どこに相談したらよいのかなど悩みや不安を抱え治療を受けています。相談のできる場所があると知ることで安心することという言葉も聞かれます。外来・病棟の看護師や、医師、他の医療スタッフ、また、治療時期により、専門看護師、各認定看護師(がん化学療法看護、集中ケア、皮膚・排泄ケア、がん性疼痛、緩和ケア、感染管理)と連携し、治療と折り合いをつけながらその人らしく生活できるように支援していきたいと考えます。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
2008年				2	3	3	3	4	4	3	7	3	32
2009年	3	6	6	5	2	4	5	4	6	6	4	5	56
2010年	5		9			3	3	5	5	4	7	3	44

がん患者さんのための 栄養管理セミナー

～患者さんに安心して通院・治療を続けていただくために～

神奈川県立がんセンターには入院患者さんの栄養を多職種でサポートする栄養サポートチーム(略称:NST)があります。NSTでは、日ごろの活動を通して得た栄養に関する情報を通院患者さんやご家族にお伝えするセミナーを開催いたします。

日 時：平成23年3月9日(水) 14時～16時(開場13:30)
会 場：旭区民文化センターサンハート
横浜市旭区二俣川 二俣川ライブ5F
総合同会：神奈川県立がんセンター 消化器外科
NSTリーダー 長 晴彦

○講 義

「ここを押さえたいがん患者さんの栄養」

- 1)がん患者さんの栄養状態
NST専門療法士 (薬剤師 辻 智大)
- 2)食事は口腔ケアから
NST専門療法士 (看護師 石原 雅美)
- 3)栄養を維持するための食事の工夫
NST専門療法士 (管理栄養士 中田 恵津子)

○ディスカッション「まだある! 栄養状態維持のための情報」

薬剤師・看護師・管理栄養士・検査技師・理学療法士等がNSTリーダーとディスカッション形式で必要な情報を伝えます。

主 催：神奈川県立がんセンター
問い合わせ先 神奈川県立がんセンター栄養管理科
(045-391-5761(内線 2410))



看護局からのお知らせ

看護学生・看護師対象にがん看護インターンシップを行っています。

ナースと一緒にがんセンターの看護を体験しませんか? 昼食付きです。

- ・日時：平成23年3月22日(火)、24日(木)
10:00～16:00
- ・対象：看護科養成校学生、看護系大学生、看護師
- ・内容：緩和ケア病棟など体験したい病棟などが選択できるようになっています。

その他の日程でのご希望の場合はご相談ください。詳しくはWEBか看護局まで電話でご確認ください。

神奈川県立がんセンターでは、常勤職員・非常勤職員(夜勤専従看護師含む)アルバイト職員を募集しています!!

- ・資格：看護師
- ・雇用形態：常勤職員・非常勤職員(夜勤専従看護師含む)・アルバイト職員

詳細をご説明致しますので、看護局又は総務課までお問い合わせください。

非常勤職員のみ4月以降の募集となります。

電話：045-391-5761(代)
(内線)看護局 3020・3021
総務課 2112

ホームページ：<http://kanagawa-pho.jp/osirase/byouin/gan/index.htm>

ボランティア会ランパスによる患者さんのための 3月木曜ミニコンサート予定表

1回目 PM1:30～ 2回目 2:30～ 各20分前後

- | | | |
|-------|--------|--------|
| 3月3日 | マリエリカ | アンサンブル |
| 3月10日 | 茂木 瑤子 | 声楽 |
| 3月17日 | 川口 規子 | フルート |
| | 西郷 昌代 | |
| | 小倉 一美 | |
| 3月24日 | 若土 規子 | ピアノ |
| 3月31日 | 神谷 ゆりえ | ピアノ |



編集 集後記

今号では、CQI評価・大腸がん講演・二つの中高生向け教育セミナー・表彰とがんセンター内外での様々な活動や成果が載っています。なかでも、医療の質を評価する概念としてCQIなるものが出てきました。直訳すると「臨床の質の評価指数」となります。医療費についてのDPCデータや診療に関するあらゆる指標から医療の質を評価し、これを院内にフィードバックさせ、医

平成22年度 9・10・11・12・1月
1日平均患者数 (単位:人)

区分	9月	10月	11月	12月	1月
入院	335.4	324.3	325.7	312.4	311.9
外来	715.3	718.6	730.0	747.8	699.8

療の質を改善することにより、医療内容の向上につながるものです。質の高いがんの「こころあたたかい」医療を目指していくための数値目標にもなります。そして、近頃は理科ばなれという言葉が喧伝されていますが、中高生の熱気が神奈川の「こころあたたかい」がんの医療を支えてくれる担い手となることを期待したいものです。(企画情報部長 野田和正)

編集・発行：神奈川県立がんセンター 企画調査室
〒241 0815 横浜市旭区中尾1-1-2
TEL 045-391-5761 (内線2510)

<http://kanagawa-pho.jp/osirase/byouin/gan/index.htm>